令和２年度第２回あま市総合計画審議会　会議録要旨

日時　令和３年１月８日（金）
午前10時から午前11時55分まで
場所　美和総合福祉センターすみれの里２階　集会室

１　出席者等

出席者等（委　員）１３名
（事務局）　６名
（傍聴者）　２名

２　会長あいさつ要旨

前回、第１回を10月に開催し、策定の基本方針について皆さんからいろいろとご意見をいただいたところである。本日は骨子案について、様々なご意見をいただきたい。

３　総合計画策定市民会議提言書の受理

今回の審議会より新たに委員委嘱した総合計画策定市民会議会長　小林 優太 委員から、審議会　鶴田会長あてに総合計画策定市民会議提言書を提出。鶴田会長にて受理。

小林委員から提言書について説明

【小林委員】

高校生も含めて幅広い世代で３回にわたって、あま市の未来についてワークショップをやらせていただいた。

提言書１ページ目に大枠としては示させていただいている。後ろのほうは詳細にどういった議論をこの３回でやったかということが整理されている。

特に今回ワークショップの中で注目したのが、あま市の魅力が何なのかという点であった。市民の目線で、あま市の魅力をどのように感じているかということを、観光や暮らしやすさという観点からリアルな声が出てきたと思っている。

そういった中で２点大きく、市民会議の中からの意見として出されたと思っている。

まず１つ目は、市の既存の魅力、財産というものをさらに活用していく必要があるのではないかという点である。とりわけ七宝焼というキーワードが多くの方から出され、あま市といえば七宝焼という、そういったイメージの強さを改めて認識するとともに、認識はしつつも現実的な目で見て、七宝焼をどう残していくのかといったときに、ただただ、今の形で残していくだけではなくて、高校生の学びの場として七宝焼の商品開発やＰＲの仕方を考えていこうというようなやり方もあるのではないかといったアイデアも出された。

また、七宝焼以外にも、特産品や歴史、文化遺産といったもの、甚目寺観音、蓮華寺、そういったものも出ており、また一方で、暮らしやすさ、あま市の名古屋からも近くて大変暮らしやすい環境というもの自体も魅力なのではないかということで、市内のほか、市外にも広めていくような新しい施策、ランニングやウォーキング用のアプリの開発、またはイルミネーションイベントを拡大してはどうかといったものも出された。

もう一点は、今あるものも大事にしていきつつ、新しいものとしてどんなものが必要な

のかと点である。２のところに、生活、労働、観光など、多方面に資する魅力向上のための施策というものも必要なのではということで大きく４点ほど書かせていただいている。
　公共施設の整備、また、働く、暮らすだけではなくて、働きやすい環境と暮らしやすさとのバランス、それから、まちの人たちの関わりを増やしていこうといったこと、あと、民間企業との連携もさらにしながら暮らしやすさを増進していってはどうかというようなアイデアが出された。スターバックスコーヒーというふうにも書いてあるが、若い人たちがどういう場を求めているのかなということも少しうかがえるのではないかと思った。
　詳しいことは提言書の後ろのほうに書いてあり、出された意見に関しては私もこの会議の中で発言させていただければと思っている。

【事務局】
　ご説明をいただいた内容については、本日、または次回以降のところで委員の皆様からご意見を賜り、計画に反映させたいと思っている。

４　議題
（１）第２次あま市総合計画基本構想（骨子案）について
【第２次あま市総合計画策定等に関するアンケート調査　調査結果】（資料１）
（説明要旨）
○最初に、資料１により、先般実施した市民アンケート調査結果について報告。

Ⅰ　調査の概要（１ページ）
○目的は、総合計画の策定、また、まちづくりの参考にさせていくためである。
○対象は、18 歳以上の市民の中から 3,000 人を無作為抽出した。
○調査方法は、郵送配付、回収、期間は 10 月下旬から 11 月上旬の 17 日間で行った。
○回収結果は、3,000 人に対して 1,176 件、全て有効回収で 39.2％の回収率であった。
○報告書の見方について、全てパーセントで表示をしている。パーセントの母数は回答者数であるため、複数回答があった場合は 100％を超えているものもある。
○報告書の表現は、意味が変わらない程度に若干言葉を変えている部分もある。
○今回は単純集計のみであるが、今後、年齢別や地域別でクロスの集計をして、さらに分析を深めていきたい。現在集計中であるため、また次回以降でお示しさせていただく。

Ⅱ　調査結果（２ページ以降）
１　回答者の属性について
○問１は、回答者の年齢をお聞きしており、70 代以上が最も多く、次いで 40 代が多くなっている。
○問２は、地区ごとの回答率をお聞きしており、ほぼ地区の人口に比例している。
○問３は、お住まいをお聞きしており、圧倒的に一戸建ての持家が多く、これはあま市の特徴的なところである。
○問４は、回答者の職業をお聞きしており、会社員、公務員が多く、次いで無職が多い。
○問５は、家族構成をお聞きしており、２世代同居が一番多く、次いで１世代同居が多い。

○回答者の属性については、今後のクロス集計に反映したい。

２　現在のあま市について

○問６は、まちづくりの全般にわたる 35 の項目に、どれだけ満足しているかということをお聞きしている。グラフの見方は、左側の部分の幅が多いほど満足を示し、右側が多いほど不満を示す。

○問７は、問６の 35 項目と同じ項目において、今後重要だと思う項目を５つまで選んでいただいた。多い順に左上から棒グラフが並んでいるが、一番多かったのが、地震や水害などの防災対策であり、昨今の情勢を反映していると考えている。

３　市の現状評価と今後の重視する取り組み

○満足度を横軸、重要度を縦軸で表している。グラフの右側に行くほど満足度が高い、グラフの上のほうに行くほど重要度が高い項目となる。グラフ赤い線は、縦線が満足度の平均、横線が重要度の平均である。各項目を平均と比較することによってエリアを４つに分けている。一番左上の重点エリアは、重要度が高く満足度が低いということで、特に取り組むべき分野ということになっている。

○10 ページからは、４つのエリアごとに前回（平成 28 年度）の調査との比較をしている。各グラフの青い三角が前回の結果、赤い丸が今回の結果で、前回から今回に矢印をつけている。全体的に矢印が右側に移動しているものが多いという結果になり、満足度が高くなっているということが伺える。今後、こちらをさらに分析を深めていく中で、詳しい説明をさせていただきたい。

４　あま市の将来像について

○問８は、第１次あま市総合計画に掲げる５つの基本目標について、どの目標に今後一層、力を入れて取り組んでいくべきかをお聞きしており、やはり基本目標１の安全が確保され、安心で快適に暮らせるまちというのが、昨今の大規模災害が多い中で３回のアンケートでどんどん増えている。次に、基本目標２の健康の関係に関心が高いという結果となった。

５　土地利用について

○問９において、住宅地、工業地、農地の土地利用については、前回（平成 28 年度）の調査とあまり変化がなかった。

○商業地の土地利用については、「新たな商業施設が立地できる商業用地の拡大を図る」という回答が多くなっており、市民の皆さんは市外へ買い物に出かけられる傾向が想定される。

６　都市の基盤整備について

○道路などの整備について、幹線道路よりも生活道路を改善してほしいという回答が多くなっているのが特徴的である。

○交通施設の整備及び公園・緑地などの整備については、特に変化はなかったが、これは重要な施策として継続していく予定である。

○河川などの整備については、かなりの変化が見られ、一番多い回答が「災害が起こらないように治水に重点を置いた河川改修、整備を行う」であった。アンケートを実施するたびにここの割合が多くなっており、大規模災害に対して懸念されていることが読み取れる。

７　市の印象（イメージ）について

○問 11 は、あま市に誇りや愛着を持っているかについて、若干の 3.5 ポイント増えているが、先ほど市民会議提言書のご説明でもあったとおり、ここをもっと増加させていく必要があると考えている。

○問 12 は、あま市の良いところについて自由記載をしていただいた。これらの強みをさらに生かしていく必要があると考えている。

８　防災について

○問 13 は、市の防災対策について、力を入れて取り組むべきものをお聞きした。前回（平成 28 年度）の調査では、「避難場所や避難道路などの整備」や、「飲料水・食料・毛布など非常用物資の備蓄」の回答が多かったが、今回一番多かったのは「河川などの災害発生危険箇所の整備」であった。

９生活環境について

○問 14 は、地域の自然環境や生活環境を美しくするために取り組むべきことについてお聞きしており、一番多かったのは「河川の浄化や下水道の整備」であった。
また、「管理されていない空き家の対策」という選択肢を今回新しく追加したが、23.4%とかなり多い回答であった。空き家については、管理されていないと、まちの景観や環境を損なうだけでなく、治安上も良くないため、市としても今後、力を入れていきたいと考えている。

10　健康、保健、医療、福祉について

○問 15、問 16 ともに前回（平成 28 年度）の調査と比べて、特に大きな変化はなかったが、それぞれ引き続き着実に実施していく必要がある重要な施策であると考えている。

11　生涯学習、教育環境について

○問 18 は、どのようなことを学んだり参加したいかについてお聞きした。全体的に前回（平成 28 年度）の調査と比べて、変化はあまり感じられなかったが、「パソコン、タブレットなど情報処理技術」と回答されている方が増えているのが特徴的である。

○問 19 は、学校について、どのようなことが必要かについてお聞きした。前回（平成 28 年度）の調査と比べて、変化はあまり感じられなかったが、こちらも引き続き着実に推進していく必要があると考えている。

12　産業振興について

○問 20、問 21 は、前回の調査と比べて、変化はあまり感じられなかったがこちらも引き続き着実に推進していく必要があると考えている。

13　市政、行財政について

○問 22 は、市政についての関心の度合いをお聞きした。残念ながら、関心がある方が減っており、市のとしても懸念しているところである。

○問 23 は、市の財政状況が厳しい中、市民がどれぐらい負担をしてでも行財政サービスを望まれるかということをお聞きした。若干であるが、「行政サービスの受益者に一定の負担を求める」という回答が増えている。

14　地域活動の参加希望について

○問 24 は、「今は参加していないが、参加したい」までを含めると、半分ぐらいの方が、興味があると思われる。

○問 24－１は、参加したくない人の理由をお聞きしている。「時間がない」や「どんな活動をしているかわからない」という順に多くなっている。こちらは市としても情報提供にさらに力を入れていく必要があると考えている。

○問 25 は、市民協働の必要性についてお聞きしている。「とても思う」が少し減り、「思う」が増えている。両方を合わせると前回よりも３ポイントほど増えているので、こちらも引き続き増えるような努力が必要であると考えている。

○問 26 は、市民活動団体の関わり方についてお聞きしている。このグラフについては、左側ほど市民が主体でやっていきたいという棒グラフの表し方であるが、残念ながら左側は少なくなっているため、意識の改革をしていかないといけないと考えている。

○問 27 は、ボランティアに参加したいかをお聞きしている。こちらも減少する結果となっているが、「都合があれば参加したい」までの合計が 62.1％あるため、多くの方に参加したい意識があるという現状である。

15　新型コロナウイルス感染症について

○問 28 は、今回新たに追加した設問で、現在の新型コロナウイルス感染症の影響による生活における不安をお聞きした。こちらは人それぞれの不安があると思う。グラフ左側から、外出時の制限や健康悪化の順に多くなっているが、しっかりと受け止めて、できる限り対策ができればと考えている。

○問 29 は、具体的な対策について自由意見によるご意見を求めた。それぞれ我々も想定される内容が列挙されていると感じている。

16　ＳＤＧｓについて

○問 30 は、今回新たに追加した設問であるが、まだ認知度が３割ぐらいと低い状況である。こちらは今回策定する総合計画をはじめ、市がほかに策定する個別計画にもＳＤＧｓについて載せていく必要があると考えている。

17　自由意見

○それぞれ項目ごとに自由意見を書いていただいた。資料に記載の意見は、一部であるが、それぞれ的確にあま市の課題を書いていただいており、貴重な意見と捉えている。

（主な意見等）

○委員

問７について、現に男女共同参画社会だと言われながらも非常に認知度が低いという回答が出ている。地震や災害のときの助け合いについて、人権尊重の意識がなかったら自分勝手な行動になってしまうため、人権尊重の意識について啓蒙啓発を市として行っていく責務があると思う。

また、問 10 の設問における「災害が起こらないように治水に重点を置く」という選択肢について、災害が起こらないといっても、勝手に起きるわけであるから、「災害が起きたときのために治水」ということになる。この選択肢は少しおかしいと思う。

○事務局

市としても人権推進課が主体となって、人権尊重について全職員を対象とした研修を行っている。この重要度を高めるために、施策の理解を促進していく必要があると考えている。

また、問 10 の設問について、今回は前回（平成 28 年度）のアンケート内容と同じ内容にこだわってしまったため、今回のご意見を踏まえて、次回はこういった部分の設問を少しずつ変えながら、最適な内容で質問をしたいと思っている。

○委員

この資料をどう生かすか、また、これから説明がある基本構想にどれぐらい反映されているのか、考え方を確認したい。

○事務局

今回策定する総合計画は、市のまちづくり全般に関わるものであるため、今回いただいたご意見については、まずは基本構想の部分で、網羅できるようにさせていただきたい。また、その下の基本計画や、各課で策定する個別計画には、ご意見の多かった部分について反映できるよう、担当課にも情報提供をしていきたい。

○委員

問７で、満足度は高まっているのではないかと説明されたが、数値的に 0.0 幾つとかという変化について、どの程度変わっていると捉えていいのか。

○事務局

まだクロス集計ができていないため、はっきりとしたことは分からないが、全体的に満足度が増えているというのは、それなりに市の施策の成果があったと思っている。しかし、一番大事なのは、６ページ、７ページの棒グラフにおいて、全体的に左側の満足度が高くなっていかなければいけないが、全体的に不満のほうが多い傾向があるので、満足度が少し上がったからといって、大丈夫だということは考えていない。全てのまちづくりに対して、まだまだ満足度は足りていないと考えている。

○委員

ボランティアという在り方が、市民協働の柱にはなかなかなりにくい部分であり、今後、市民協働をどうしていくのかということについて、総合計画にはパートナーシップが大事だと書いてあり、市民参加の会議をされているが、やはり限られた人たちだけが

まちづくりに参加するということではなく、幅広い世代の方が協働のまちづくりに参加していくという根本的なところをこのアンケートから分析していかないと計画に盛り込みにくいと感じた。

○会長
大体、皆さん、アンケート調査は非常に評価いただいているので、その結果を計画の中にフィードバックしていただけるかということと、出てきた数字やデータをどう読むのかということで、１個の数字だけ取り上げて、良いとかではなく、本来その数字が持っている意味をきちんと理解した上でそれを計画に反映していただきたい。

○委員
今回の回収結果について、有効回収率 39.2%という数字が出ているが、事務局としては妥当な数字と思っているか。また、この回収率は、前回（平成 28 年度）、または前々回（平成 22 年度）調査と比べて大きな変動があったか。内容についても、例えば年齢別についても前回と大きな違いはあったか。
○事務局
回収率について、前回は 40.2%、平成 23 年２月に行った前々回は 41.0%ということで、少しずつ減っている。年齢別の数や分析は、クロス集計をする段階で整理をしたいと思っている。
○委員
端的に考えて、10 年たてば 60 代の人が 70 代となるなど、１ランクずつ上がっていくので、この辺の違いもどうやって読み取れるか。
○会長
今、現状で年代別の回答者の割合が大体でも分からなければ、次のクロス集計のときにご説明をいただきたい。年齢に大きな差があるのであれば、過去とのデータを比べるときに当然それは配慮しなければいけないというご指摘だと思いますので、併せて今後検討いただく際にお願いしたい。
○事務局
年齢別の発送者は把握しておりますので、年代別の回答者の数字を併せて、次回報告させていただく。

○委員
クロス集計をかけたところで、10 代が 20 人ぐらいのデータとなるため、やはり全体の声を反映しているのかというのは、疑問が残るところかと思う。市民会議でも感じたことであるが、10 代の人たちの中にすごく意欲的に考えている人がおり、大学生で市民活動をやっていらっしゃる人たちもいるので、アンケートの声だけではなくて、そういった実態も踏まえながら分析をしていただけると良いと思っている。
○会長
今、委員が言われたように、審議会や、提言いただいた市民会議や、アンケートなど、いろいろな手法を組み合わせて、そうしたものを読み取っていくということがベストであると思う。

○委員
今の点について、年齢のほか、アンケートであま市在住期間による分析もあると良いと思う。
○事務局
今回、総合計画のアンケートの設問に、あま市在住期間というのは無かったが、都市計画マスタープランの市民意識調査では、そういった設問を設けているので、こちらの情報も共有しながら総合計画に反映していきたいと思っている。あま市は転入をして来られる方が多く、転入者とずっと住んでいる方の意見の違いというのも重要だと思う。

○委員
新型コロナウイルス感染症の関係で、問29に自由意見が書いてあるが、それに対して市としては、どういう考えを持っているか。確かにホームページにはいろいろ書いてあるが、ホームページを読む人ばかりではないため、そのあたりの市としての対応は、今後どうされるか。

○事務局
市の情報発信は、毎月の広報、ホームページがメインであり、今はLINEやYouTubeなど、いろいろな方法を取っているが、本当に市民に伝わる方法というのも確立されていないのが現状である。追加でできるものがあれば検討していきたい。

【第２次あま市総合計画基本構想（骨子案）】（資料２）
（説明要旨）
○目次については、現行の総合計画の章立てに倣い、Ⅰ序論の第１章から第３章、次のⅡ基本構想の第１章及び第２章について、骨子案としてまとめたものである。

Ⅰ序論について
○Ⅰ序論の２ページ「第１章　総合計画の策定にあたって」について、「１　計画策定の背景と意義」であるが、現行の計画策定から10年が経過する現在のいろいろな社会情勢の変化、少子高齢化や人口減少、地域経済への影響、災害、今回のコロナの関係などを踏まえて、引き続き地域資源を活用し、市民の皆様との協働によるまちづくりを力強く進めていくための指針となる計画を策定するということを記載している。
○３ページ「２　計画策定の方向性」について、大きく３つある。
まず、「（１）市民や多様な主体との協働を目指す総合計画」である。協働は引き続き推進していくものになるが、協働のパートナーとして、これまで入っていなかった「学校」という言葉を入れた。市内小中学校をはじめ、美和高校、五条高校、先般連携した中部大学や、以前から連携している同朋大学などと連携しながら、学校の力も借りてまちづくりをしていこうという考えである。
続いて、「（２）持続可能な行政経営の観点を取り入れた実効性のある総合計画」ということで、ここでは持続可能ということを新たに取り入れた。SDGsでも言われているが、環境や人権など、いろいろなものに配慮しながらまちづくりを行っていかなくてはいけないという意味で持続可能という言葉を追加した。

続いて、「（３）市民に分かりやすい総合計画」である。現行の総合計画と同じく、市民にも職員にも分かりやすい、進捗管理がしやすい総合計画を目指している。

○４ページ「３　計画の期間と構成」については、資料では、まだ現行と同じ内容が記載されており、また次回以降で細かいところを決めさせていただく。

○「第２章　あま市の概況」の７ページ「３　主要指標」について、国勢調査の実施は５年に１回であるため、まだ平成27年までしか掲載しておらず、現行の総合計画と同じである。「（１）人口」において、「①人口・世帯数」については、人口は微増、世帯数は増で推移をしており、現在もその傾向は変わっていない。「②年齢別人口」については、少しずつ年少人口が減少している。今後、少子化が進むと、もっと減ることが想定される。「③流出・流入人口」については、流出、流入とも名古屋市が一番多く、その他、津島市、稲沢市や、近隣の市町が多くなっている。名古屋市の中でも、中川区とか中村区、西区、港区とか、あま市寄りのところが多くなっている。

「（２）産業の状況」において、「①産業別就業者数」については、第１次産業が非常に少なく、さらに数が減っている。第２次産業は、少し減っている。第３次産業は、主にサービス業であるが、こちらは増えている。「②商業動向」については、卸売・小売業が、事業所数、従業員数、販売額ともに減少している。「③工業動向」については、商業に比べると比較的現状を維持しており、事業所数が減っている割には出荷額はまだ減っていないという状況である。「④農業動向」については、あま市は農業振興地域、農業地区もあり、まだこれだけの耕地が残っている。販売農家数は、明らかに減少しており、後継者不足が想定されている。

Ⅱ　基本構想について

○23ページ「第１章　あま市の将来像」において、あま市の将来像（案）として、３つの案を示させていただいている。３つそれぞれ表現が違うが、考え方は同じである。

○一番上のものを例に説明させていただくと、「持続可能な（次代へ繋がる）魅力を育むセーフティー共創都市“あま”」ということで、市民会議の場でも、多くのご意見、まちづくりのアイデアをいただいたが、あま市には、魅力的な人や歴史、文化などの多様な地域資源があふれていると考えている。こうした人や地域資源をあま市の持続可能な魅力と位置づけ、この魅力を継続的に育むことができる位置づけが必要だと考えている。この持続可能な魅力を育むということが、今のSDGsの推進にもつながるものと考えている。

この持続可能な魅力を育むためには、市民一人一人がまちづくりの主体となっていくための共創や共に生きるとするまちづくりが必要だと考えている。

また、市民アンケート調査でも、防災対策に対する意見が非常に多かったため、この防災対策、安全・安心というところは、このセーフティーという言葉で置き換えている。併せて、昨今の感染症対策についても、安全・安心というふうに持っていきたいため、この点においてもセーフティーという言葉を使っている。従って、第１次総合計画と同様に、セーフティー共創都市という要素は取り入れていきたいと思っている。

○基本理念については、将来像を目指すための基本理念ということで、３つ設けさせていただいた。「（１）地域の力を結集する共創のまちづくり」は、市民協働やパートナーシップという要素を含めている。「（２）持続可能な魅力・活力あるまちづくり」は、持続

可能という要素を含めている。「（３）次代につなぐまちづくり」は、次の世代に負担を残してはいけない、しっかりと力強いまちをつくっていきたいという思いが込められている。

〇24ページ「３　目標人口と土地利用計画」について、今回は特に「（１）人口等推計」について説明させていただく。人口は、現行の総合計画で９万人を目指しており、別途策定しているあま市のまち・ひと・しごと総合戦略の人口ビジョンでも同様に９万人を目指している。ただ一方、このグラフには、３つグラフがあり、2020年において、オレンジ色の丸印のグラフ（社人研推計準拠）は、87,395人と、かなり低くなっている。赤い四角印のグラフ（あま市の人口ビジョンによる独自推計）は、市の努力によって出生率を向上させた結果、これぐらいの人口になるだろうという推計である。青い三角印のグラフは、令和２年10月１日現在の実数字である。推計よりも多くの人口であるということは、あま市のポテンシャルがまだあるということである。

文章の下から３行目に記載のとおり、今後も企業誘致や市街化区域の拡大を念頭に置いて、暮らしやすい住宅地の整備を行うことによって、引き続きこの９万人を目指す必要があるということで、一番下に人口フレームとして、まだ計画期間は10年とは決まっていないが、10年と仮定した場合に、令和13年に９万人を目指すということを設定させていただいた。

続いて、「（３）土地利用計画」であるが、別途策定を進めている都市計画マスタープランと整合を図っていくために、まだ現行のものを掲載している。また都市計画マスタープランの進み具合で徐々に更新していきたい。

〇27ページ「１施策の体系」は、まだ本当に素案の段階であるが、少し言葉を見直しさせていただき、基本目標と、基本目標にぶら下がる形で、それぞれ施策の大綱を定め、そこにいろいろなまちづくりの項目が入ってくるというイメージである。

こちらもまだ、あま市としてどういう形が一番良いのかをこれから考えながら決めていきたいと思っており、今回は参考までにお示しをしている。

（主な意見等）

〇委員

７ページや、11ページの商業の動向のあたりで、先ほどご説明いただいたように、結構大きな変化が出ていると思うが、要因の分析などは追記される予定であるか。

〇事務局

分析ができ、ここに記載できればベストだとは思う。明確な結果が分かれば、記載させていただきたい。

〇委員

施策の大綱は、第１次のときと比べてほとんど継続なのか、新しくここに案として出ているのはどれくらいあるのか。例えば、市長の基本理念として、「“勇健都市あま”未来へ動く！－今を生きる市民のため、未来を生きる若者のため－」と言っているが、関連はあるのか。

○事務局
新しい内容は一部掲載しておりますが、委員が言われるとおり、どこが変わったか、分かりやすいつくり方をしていく必要があると思う。市長の考えでは、総合計画を基に政策を練っており、総合計画に含まれている施策の大綱に基づいて、今の勇健都市という言葉を使っている。

○委員
10ページ「（２）産業の状況」のとおり、第１次産業が衰退している状況の中で、それを見据えた政策というものも今後一層推進していく必要があるのではないかと考えている。
また、23ページ、あま市の将来像について、第２次総合計画将来像の検討に向けたキーワードで、SDGsと書いてあるが、この17項目について、果たして本当に市民の皆さんに分かるように浸透している、そういった発信をしているか。ただ言葉だけが先行して、中身が伴っていないというのが現実だと思う。AI、IoTについても、その意味を分かって、みんなが理解することが一番大事である。言葉だけが先行しても意味がない。市民が理解できる基本構想にしていかないといけない。
○事務局
農業については、農業振興地域、農業区域も残っているが、最大の課題は、後継者不足であるため、農業ができる方に利用集積をしていく必要があると考えている。そこは計画にもしっかりと盛り込んでいく予定である。
また、後継者の育成については、先日も女性の農業者の方が新たに誕生したということで、広報にも載っており、数は少ないのかもしれないが、着実に後継者、世代交代をできるような支援をしていきたいと考えている。
一方、方領地区については、もともと農業をやってくださいという土地だったが、交通利便性が非常に良いということで、政策的に企業誘致の用地とさせていただいている。今後、農業をやるところは農業をやる地域、住宅は住宅、工業は工業、そういう地区分けを明確にして、メリハリのある土地利用をしていきたいという考えを持っている。
また、SDGsについては、アンケート結果でも３割未満の人しか知らないということであり、今回の資料についても、SDGsの雰囲気は全く感じられないような資料になってしまっているが、最終的には、市民に分かりやすいSDGsの表現を考えている。

○委員
Society5.0というキーワードも23ページに掲載されており、大変重要なワードと思うが、どういった意図で入れているか。
○事務局
今、人材がどんどん減っていく中で、こういったAI、IoTの技術というのは国も推奨しており、あま市も当然やっていく必要があると考えている。このSociety5.0も言葉の意味自体も分かりにくいところがあるので、分かりやすくかみ砕いて計画に反映して、それを職員、市民の皆様に示していきたい。
○委員
コロナを受けて、本当に情報技術をどのように活用していくかについては、日常生活の

中でも大事なことであり、例えば学校教育の中でタブレットや情報を活用した教材開発なども、これから大事になるかもしれない。今は、あま市とIoTということが全然結びつかないイメージがあり、Wi-Fi１つ飛んでいないまちで、どうやってIoTをやるのかと思うが、例えば新しい庁舎ができたときに、情報環境としても整っていると、市民の方が自然とそういうツールにも触れられ、そういうところにあるコミュニティースペースでまちづくりの議論をし、みんなが自然とまちづくりに触れられるような環境があるというのも良いと思う。そういうツールが整っていることで、人を集める効果がもし生まれるのだとしたら、そういう場づくりもありではないかと思う。何かいろいろな可能性が考えられるのではないかと思う。
Wi-Fiを飛ばすことがSociety5.0だとは思わないが、より具体的にもう少し広い視野でお考えいただいて、具体的に記載して、10年後こうなっていたいという話ができると良いと思う。

〇事務局
何ができるのかというところがまだ整理できていない部分もあり、非常に難しい分野であると思うが、できるだけ具体的に記載できればと思っている。

〇委員
学校のほうでタブレットを導入されるというお話も聞いているが、どのように使われるかというのが、どこの学校運営協議会に出席しても、現段階ではまだはっきりしていないという回答が多いように感じられる。あま市としてどのようにタブレットを子供たちに活用してもらうのかというところが、もう少し計画を練って、導入に関しては、それぞれの市町の現状とか課題に即して入れていかないと、ついていけない部分もあると思う。そういったところがこの計画に、より具体的に落とし込まれていくといいということと、特にこういった分野というのはどんどん変化していくところだと思うので、随時、見直しをしながら導入していくような動きになっていくといいと思っている。
また、23ページ、あま市将来像（案）のところで、「持続可能な魅力を育む」とあるが、「この持続可能な」がどこにかかっていくのかが少し分かりにくい印象を受けた。個人的には「持続可能なセーフティー共創都市あま」とか、「持続可能なまちづくり」とか、そういった認識がある。
また、27ページで、現行の総合計画と少し違うと感じたのが、市民協働という言葉が、施策の大綱の一番右のところで、再掲として３つぐらい出てきている。
現状では、市民協働は市民協働係で企画政策課の中に位置づけられていると思う。そこで市民活動センターが市民活動団体のボランティア活動とか市民協働の拠点として運営をさせてもらっているが、これだけ重要項目として今後位置づけていくのであれば、行政の中の部署としてのマンパワーが足りないのではないかと感じている。
これだけ今後の10年の計画の中で市民協働ということに力を入れていくということであれば、少しそういったところも考えていただけると良いと思う。

〇委員
児童生徒１人に対してのタブレット１台導入について、もともとあま市としては、もう少し先を考えていたが、国の政策でもう来年度からということとなり、今準備をしているところである。物は入っても、どうやって使うかということが一番問題である。

幸いなことに、昨年、伊福小学校にタブレットを100台寄附いただき、先進校として現在、実践をしている。今度、ほかの学校の先生方にも来ていただいて、一緒に勉強しようということで、タブレットの授業を見せてもらう公開授業というものをやっている。また、教員の研究グループ、教育委員会が主導で研究テーマを決めて毎年やっている活動があり、そこに大きく捉えてはGIGAスクール構想、それから、実際にタブレットをどうやって使っていくか、教育にどうやって役立てるか、そして、いずれ電子教科書も普及してくるため、そういったところも含めながら、将来を見据えていろいろ今、先生方に勉強していただいているような感じであるから、そういったものが徐々に子供たちに還元されていくと思う。

○事務局

将来像については、確かに「持続可能な」が最初に来て、言葉のつながりが分かりにくいと感じた。これはまだ確定ではないため、委員のご意見も踏まえながら、最終的には市長まで確認をさせていただきたい。

○事務局

市民協働についてのマンパワーというご指摘について、職員配置は、現在の企画政策課の係で対応させていただくところであると思っている。マンパワーが増員できるかどうかについては、確実なことは申し上げられないが、与えられた職務を全うするよう、それぞれの資質向上も努めながら対応させていただきたいと考えている。

○会長

将来像（案）も、もう少し再考の余地があるのではないかと思っている。基本理念の１、２、３というのは非常に分かりやすく、あま市の今後やっていきたいことを受け止められているような気がするが、この基本理念が２章の施策の体系の①～⑤にきっとつながっていくと思うが、分かりにくい。

だから、施策の大綱も何か分かりにくいので、もしも皆さん方がこの基本理念１、２、３はこれで良いということであれば、それを踏まえて、それと関係づけるようにして、２章のこの施策の体系を整理されたほうが、分かりやすくなると思う。

○事務局

現行の総合計画も、確かに将来像が来て、すぐその横に５つの基本目標が来てしまっており、基本理念が抜けてしまっているようなつくりになっている。今のご意見も踏まえて、基本理念があってこその基本目標になるので、ここはご意見を採用させていただく方向で作成させていただく。

○会長

すると、市民協働のことは多分（１）だと思うので、それが一番上に来る感じになると思う。それを受けて、（２）の持続可能な魅力・活力あるまちづくりというのも、市民協働を踏まえた上で、それに乗っかってくるというふうになると、多分分かりやすく、よく整理される気がする。

○委員

第２次として、何か重点的な項目はこれだ、というような、そういうことも分かるような表示、決め方をしたらどうかと思う。また、世の中は、非常に高齢化社会になってお

り、高齢者の人たちが暮らしやすい生活、毎日が送れるような施策をもっと重点項目の中に入れていくべきではないかと思う。それから、もう一点、安全・安心で暮らせるまちという項目の中に犯罪のない、非行のないまちを目指そうというのも入れていくとよいと思う。

○事務局

総合計画というと、よく総花的な計画になってしまうが、その中で、何がさらに重点的なものなのかというものをお示しすることは、分かりやすさの面ではいいことだと考える。全てが重要なものの中で、さらにこれは優先的にやるとか、そういうお示しができればと考えたい。

高齢者の関係については、今後、高齢者がどんどん増えていくということで、これも最重要課題と考えている。計画の中には高齢者施策は掲載されるので、その中でより高齢者が暮らしやすい計画にできるようにしたい。総合計画はもちろん、高齢福祉課で策定する高齢者の計画もあり、生涯学習の分野、スポーツの分野、いろいろ高齢者の活躍の場はあるので、様々なことで高齢者の施策を打っていきたいと考えている。

安全・安心の話については、犯罪が起こらないようなまちづくりは目指していくべきものだと思うので、何とか計画のほうにも反映して、安全安心課、警察とも連携しながら、犯罪のないまちを目指していきたいと思っている。

○委員

今、町内会に入られる方が本当に少ないので、隣に誰が住んでいるか知らないような状況があちこちで起こっている。これはやはり、市として町内会に入ってもらうことを考えてもらい、町内会がしっかりすれば、安心・安全や防犯など、全部のことがつながってくると思う。

○事務局

町内会の加入者が少ないというのは、これまでも課題として認識していながら、なかなか手を打ってこられなかった部分でもあるので、いただいた意見を慎重に受け止めて、策を検討していく。

○委員

委員も言われたとおり、安全・安心なまちづくりとか、いろいろ前から言葉としてはうたってあるが、生活環境が変わってきているので、そういうことも少し考慮に入れていただきたい。

○委員

市民会議の立場からお話をさせていただくと、確かに今回の提言書の中を見ても、高校生をはじめ、若い世代が魅力をどう感じて、あま市をもっと元気にしていこうというアイデアのほうが重点的になったとは思う。

そういったところに関心を持っている人もいっぱいおられ、意見もどんどん出てくる。それはすごくすばらしいことだと思うが、一方で、商工業や農地について、地域がどうなっているのかということをなかなか知らない部分も多いと思う。

だから、程よい田舎がいいとは言っているものの、その程よい田舎をどうやって守っていくという話などは、なかなか具体的には考えられていなくて、何かこうあったらいい

なという思いがあるのはすごくいいことだと思うので、そこと現実をもっと繋げるような部分を、交流の機会とか、知る機会を増やすというのは、すごく大事なことではないかと思う。
ちゃんと理念に入れていただいていると思うが、具体的にそういう世代との交流点、接点をどうつくっていくかという部分を計画の中で盛り込んでいけるといいのではないかと思う。

〇会長
いろいろな文言が、すごく大切な文言がいっぱい散りばめられているすてきな提言書だと思う。本日、提言書を会長として受け取ったので、やはりこういう何回も回を重ねてワークショップをやっていただいた貴重なご意見も、非常に重要なことがいっぱい書かれている。そういう意味では、この提言書のこの表面の一枚目が、こちらの中には一切出てこなかったのが少し気になっていたので、何かもっと上手に使っていただけたらありがたいと思う。

５　その他

〇事務局
第３回審議会は、３月 18 日木曜日、午前 10 時から本庁舎での開催を予定している。